（R4.12.22発行）

宮城県林業普及活動情報

2022.11月号　No.174

もくじ

各地の林業普及活動情報　Ｐ２～１１
○規格外苗木を使った加工品検討　（大河原地方振興事務所）
○たけのこ料理教室と竹チップコンポストの普及　（大河原地方振興事務所）
○林業研究グループと連携した柴田農林高校へのインターンシップ支援　（大河原地方振興事務所）
○「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業マッチングイベント」への支援　（大河原地方振興事務所）
○宮城県産山の幸販売会　（大河原地方振興事務所）
○たいわ産業まつりで原木しいたけPR　（仙台地方振興事務所）
○宮城県産木質燃料の供給に向けて　（仙台地方振興事務所）
○みんなで広げる木造建築を目指して　（仙台地方振興事務所）
○２１世紀の林業を考える勉強会　（北部地方振興事務所）
○市有林における広葉樹施業検討の現地確認等　（北部地方振興事務所）
○研修会におけるハタケシメジ簡易施設栽培の情報提供　（北部地方振興事務所）
○「クラフト教室＝巣箱づくりに挑戦」への支援（北部地方振興事務所 栗原地域事務所）
○苔ネットワークの構築に向けた支援　（北部地方振興事務所 栗原地域事務所）
○知事の現場訪問　（北部地方振興事務所 栗原地域事務所）
○森林クラウドシステム操作研修　（北部地方振興事務所 栗原地域事務所）
○石巻北高等学校飯野川校に対する地域産業学習への支援　（東部地方振興事務所）
○地域産素材の需給マッチング支援　（東部地方振興事務所）
○イヌワシの棲む森づくり活動支援　（東部地方振興事務所）
○補助事業による事業効果調査の実施　（東部地方振興事務所）
○再造林の推進協定に基づく植樹式　（東部地方振興事務所）
○更新伐施行地における更新状況調査　（東部地方振興事務所 登米地域事務所）
○竹林整備における資源循環に向けた支援　（気仙沼地方振興事務所）
○令和４年度宮城県林業普及活動・試験研究成果発表会　（林業技術総合センター）
○ハタケシメジ簡易施設栽培マニュアルの普及　（林業技術総合センター）

規格外苗木を使った加工品検討

大河原地方振興事務所

【９日(水)】

規格外苗木を使った加工品の商品化に向け，県庁で開催される山の幸販売会でサンプル配布するにあたり，アロマセラピスト及び森林セラピストの方を外部講師に招き、天然アロマウォーターの品質等の確認及び，匂いの鑑定を行い，山の幸販売会で配布する樹種を１０種類選定しました。また，異業種との交流により，支援対象の苗木生産者からは，今後の取り組みに意欲的な意見が聞かれました。

引き続き，販売会で配布するサンプル品の調整等，パッケージデザインを手がける産業技術総合センター等関係機関と連携し，支援していきます。

【試作品選定の様子】

たけのこ料理教室と竹チップコンポストの普及

大河原地方振興事務所

【10日(木)】

福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の被害による出荷制限等により，消費が低迷したタケノコの消費拡大を図るため,また,県内各地で問題となっている放置竹林や資源循環について考えるきっかけづくりとして,仙台市ガス局の協力を得て,「みやぎ竹やぶ会議」と共催で料理教室を開催しました。

料理教室では，タケノコを使ったデザートやサラダ等今までとは違った素材の魅力を紹介することができ，参加者からも好感触が得られました。また，放置竹林や竹チップコンポストの紹介では，竹林の現状や地域での取組について広く知っていただいたことに加えて，アンケートを実施したことで，コンポストに対する認識や，改善点等を知ることができ，今後の展開に向けたヒントを得ることができました。

引き続き，関係機関と連携し，竹及びたけのこの活用と需要拡大に向けた取組について支援していきます。

【料理教室の様子】

林業研究グループと連携した柴田農林高校へのインターンシップ支援

大河原地方振興事務所

【７日(月)】

林業研究グループ「仙南フォレストクラブ」で実施する，柴田農林高等学校へのインターンシップの活動を支援しました。

当日は「特別市」だったことから，東北や関東から多くの材が集荷され，買い付け事業者も多数訪れ，活気のある競りの様子を見学することができたほか，９月に柴田農林高等学校演習林から伐採し，出品した木材の競り売りの様子も見学することができ，全て買い手がついたことで，生徒からは喜びの声が聞かれるなど、有意義な活動となりました。

【見学の様子】

「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業マッチングイベント」への支援

大河原地方振興事務所

【13日(日)】

大河原町の「うらにわあとりえ」が毎月開催している「うらにわマルシェ」において，みんなの森づくりプロジェクト推進事業実施団体等による「竹あかり製作のワークショップ」や，活動を紹介するパネル展示など，都市部等の県民との交流を図るマッチングイベントを開催しました。特にドリルを使用して竹に穴を開ける竹あかり制作体験は大好評で，竹林整備活動について，一般県民へ知ってもらうよい機会となりました。

今後も，関係機関と連携し，竹林及び森林整備等に関心をもってもらうための普及・啓発活動を行っていきます。

【懇談会の様子】

宮城県産山の幸販売会

大河原地方振興事務所

【29日(火),30日(水)】

県内産のきのこをはじめとする山の幸を広く消費者にＰＲし，原発事故による風評の払拭，消費拡大を図るために県庁で開催された販売会において，管内生産者の販売支援等を行いました。

時間内に完売するものもあり，山の幸の魅力を消費者に紹介するいい機会となりました。また，リピーターの方と生産者との交流や，生産者同士の情報交換の場にもなっており，出展者からはこうした販売会等の機会があれば今後も積極的に参加したい

【販売会の様子】

といった声も聞かれました。
　引き続き，仙南の山の幸の販路拡大に向け，生産者支援を継続していきます。

たいわ産業まつりで原木しいたけPR

仙台地方振興事務所

【６日(日)】

　大和町産の原木しいたけをPRするため，大和町原木しいたけ生産推進協議会と連携し，たいわ産業まつりにて原木しいたけの植菌体験及び販売会を実施しました。午前午後各１回ずつ植菌体験を開催したほか，生産者による原木しいたけ直売を実施しました。
　老若男女問わず，訪れた方々に原木しいたけ栽培に触れてもらい，安心安全な原木しいたけをPRすることができました。
　引き続き原木しいたけの認知向上を目指す生産者の取り組みを支援していきたいと思います。

【植菌体験の説明をする生産者】

宮城県産木質燃料の供給に向けて

仙台地方振興事務所

【９日(水)】

　宮城県産木材の活用途拡大を目指し，県産木質燃料の生産について討論会を行いました。
　チップも用途によって注意を払うところがさまざまで，一つ一つの作業工程を分解し，さまざまな立場からの意見を交わすことができました。
　森林資源の有効利用に向けた宮城型モデル構築に向けた具体的な討論が始まりました。

【チップ工場での討論会】

みんなで広げる木造建築を目指して

仙台地方振興事務所

【17日(木)】

　みやぎ環境税事業「みんなで広げる木育活動普及推進事業」を活用し，建築学を学ぶ高校生と森林観察会や製材所・木造建築物の見学を行いました。
　高校生は，木材の伐倒の様子や製材工程を実際に見たり，製材品が建築物となっている様子を見て，教科書に書いてあることを体得したようで，将来に向けてみんなで広げる木造建築への寄与が期待されます。

【建築学を学ぶ高校生による森林観察会】

２１世紀の林業を考える勉強会

北部地方振興事務所

【４日（金）】

例年開催されている、鳴子林業研究会主催の「２１世紀の林業を考える勉強会」で、今回は、株式会社佐久の大渕企画研究課長による、森林生態学における宮城県の植生についてや、今後の林業におけるビジネスの可能性等について聴講しました。

自然と共生する、より良い森林施業の進め方や、都市住民や高校生等の若者に向けた、自然との触れ合い体験等は、実施方法の工夫次第で、市場価値の高い、新たなビジネスになり得ること等を学ぶ機会となりました。

今後も鳴子林業研究会の支援に努めてまいります。

【勉強会の様子】

市有林における広葉樹施業検討の現地確認等

北部地方振興事務所

【10日（木）】

大崎市が、今後広葉樹の計画的な伐採及び植栽を検討していることから、補助事業を活用した伐採等が可能か現地確認を行いました。また，情報収集として，宮城県森林組合連合会が主催する第35回優良みやぎ材展示即売会（場所：大衡総合センター）での広葉樹の入札状況等を確認しました。

大崎市有林の広葉樹については、事業区域の設定や近接事業地と組合わせる等の工夫により、補助事業導入は可能と判断されたため、今後，具体化に向けた検討が行われることとなりました。

【大崎市有林の状況】

研修会におけるハタケシメジ簡易施設栽培の情報提供

北部地方振興事務所

【30日（水）】

加美町の直売所である「やくらい土産センター」の販売力強化を目的として、大崎農業改良普及センターが研修会を開催し、新たな販売品目の導入を支援しました。野菜、花き、果樹等の新規導入品目のほか、特用林産物分野からハタケシメジの簡易施設栽培について情報を提供しました。

簡易施設栽培方法について熱心に耳を傾ける生産者が多く、研修会終了後のアンケ

【研修会の様子】

ートでは５人程度の生産希望者を把握できました。今後、大崎農業改良普及センターと連携して、生産希望者を巡回し、栽培環境の整備や技術的支援の提供について検討、実施していきます。

「クラフト教室＝巣箱づくりに挑戦」への支援

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【６日(日)】

栗原市花山のこもれびの森・森林科学館が主催するクラフト教室「巣箱づくりに挑戦」を支援しました。

当日は事前に予約のあった親子１０組が，森林科学館が準備した巣箱キットのパーツを「鳥が来てくれるといいね！」と話しながら，釘や木ネジ等を使い丁寧に組み上げていきました。

こもれびの森・森林科学館では幅広い年齢層を対象に，今回の「巣箱づくりに挑戦」のほか，藍染め体験などの大人が楽しめるクラフト教室（年間５回），キッズチャレンジ（４回シリーズ）のような自然体験講座を開催しております。そのほか小学生を対象として，場内の森林内で集めた木の実や葉っぱを素材としたクラフト体験コーナーも常時開設しているなど，自然や木に触れあう機会を広く提供しています。

【お父さんに手伝ってもらい金槌で釘を丁寧に打ち込みました】

苔ネットワークの構築に向けた支援

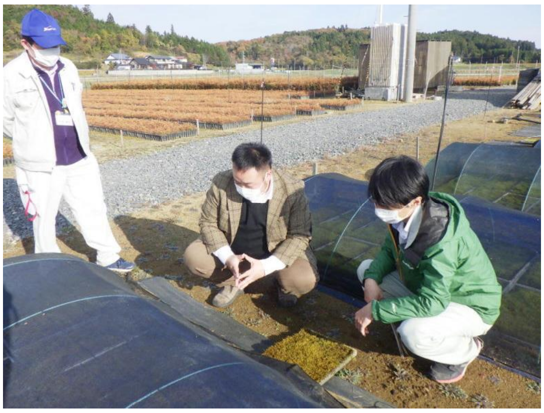
北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【10日(木),28日(月)】

栗原地域では，これまで「苔ふれあいフェア」等の開催を通して，苔に関するビジネスの創出を模索・支援してきましたが，仙台市泉区の造園業者から，栗原地区の苔圃場を視察したいとの要請があり，栗駒高原森林組合及び文字苔っこの会の圃場を案内しました。

造園業者では「コケリウムコンテスト」の開催において，これまでは自社が経営する公園等から採取していましたが，苔の種類と量的確保を課題と捉え，今後は生産者からの購入を検討しているとのことでした。

そんな中，当事務所としては苔文化の定着と苔ビジネスの創出を図るため「苔アート」展の開催を予定しておりますが，苔ふれあい



【栗駒高原森林組合での視察状況】

フェアに出展いただいた川崎町の事業者の協力をいただけることとなり，令和５年２月の開催に向けて，イベントの打合せと苔自生地の調査を行いました。
　苔におけるビジネスモデルの構築は道半ばですが，苔アート展の開催やコケリウムコンテストの栗原地区での開催を通して，苔の生産者，実需者，苔ファンを結びつけた苔ネットワークを構築し，苔ビジネスの定着を図っていくこととしています。

【文字苔っこの会の視察状況】

知事の現場訪問

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【11日(金), 15日(火)】
　知事が富県宮城の実現に向けて取り組む企業等を視察して，関係者と意見交換を行い，今後の政策に反映させるため15日に実施された「みやぎの現場訪問事業」が市内のなめこ栽培企業において開催され，当日の実施も含めて，事前準備やリハーサルなどについてこれまで支援してきました。
　当日は，代表からの概要説明や意見交換の後，栽培・生産施設を視察し，知事から農業者をしっかり支えていくとの言葉をいただきました。生産者からは，今後も事業を進めていく上で，とても励みになったとの感想がありました。

【なめこ生産施設を視察】

森林クラウドシステム操作研修

北部地方振興事務所 栗原地域事務所

【29日(火)】
　栗原市では，森林クラウドシステム３台分をライセンス契約しており，林業担当職員が使用しています。
　基本的な操作は，使用継続のうえ習得していましたが，より効率的な図面の表示や林小班からの検索について操作方法の研修を行いました。
　使用している機能は，森林計画図と地番図から森林所有者情報を得たり印刷等が多いですが，現地と森林簿があわないなど修正を要する箇所が散見されるなど訂正依頼もあったため，精度向上維持のため連携して取り組んでいきます。

【操作方法を伝授】

石巻北高等学校飯野川校に対する地域産業学習への支援

東部地方振興事務所

【２日(水)】

石巻地域での産業人材の確保のため，同校生徒に地域の基幹産業の一つである林業・木材産業の現地を見学してもらい，将来の進路選択に向けた支援活動を行いました。

まず，石巻地区森林組合の現場では，高性能林業機械での施業や操作を体験しました。続いて，（株）山大では製材及びプレカットの工場見学を行い，一連の木材の生産・加工・利用について学習してもらいました。

対象が１年生で，「日常は目に触れない産業について，今後のためになる学習機会だった」という感想が多く，進路選択の参考として有効でした。

【プレカット工場等の見学】

地域産素材の需給マッチング支援

東部地方振興事務所

【４日(金)】

石巻市内の木工業者から，「これまで産地不明の木材を使用していたが，今後は地元材を活用したい」という相談が寄せられたため，素材供給者側の石巻地区森林組合担当者との素材需給のマッチングを行いました。

特に，スギ材については，サイズや価格等について調整を行い，今後定期的に取引をするに至りました。また，広葉樹材については不定期の生産となるため，貯木場を見学し，ほしい材が入荷した場合に取引をすることとなり，スムースな話し合いとなりました。

【意見交換のようす】

イヌワシの棲む森づくり活動支援

東部地方振興事務所

【６日(日)】

石巻市の地域住民組織により，イヌワシの生息に適した環境を作ることを目的とした森林整備（植樹）活動を支援しました。

内容は，事前に前生樹を伐採した約1,000㎡のエリアにナラ、クヌギ等11種を植栽し，多様な生態系の創出を目指すものです。併せて，鹿の侵入を防止する柵も設置したほか参加者どうしで現地の将来像や今後の活動内容を話し合いました。

【組織代表のあいさつ】

補助事業による事業効果調査の実施

東部地方振興事務所

【15(火),17（木)】

過去に補助事業で導入した施設について，生産量等の目標値に対する達成率が低調（または赤字収支）な各事体における状況調査を行いました。調査では，各施設における生産量や稼働状況について把握するとともに，目標に対して低調な理由やその原因を聞き取り，改善策を検討しました。

また，昨今の経済情勢や周辺動向（例：地域で事業を開始したバイオマス発電所等）にも注目するなどして，目標に近づける努力をお願いしました。

【対象施設の確認】

再造林の推進協定に基づく植樹式

東部地方振興事務所

【28日(月)】

株式会社山大，石巻地区森林組合，当所による協定（令和2年6月締結）に基づき，石巻市北上町の伐採跡地で植樹式(今回で第2回目)が行われ，参加者43人により，スギ苗木（少花粉・コンテナ苗）700本を植栽しました。

今回は，現地産の木材で新社屋を建設した企業や住宅資材メーカーの社員も多数参加し，活動の輪が広がりました。

当所では地域環境の保全やＳＤＧsの達成に向け，今後とも，多様な関係者間の連携を進めることとしています。

【参加者の作業状況】

更新伐施行地における更新状況調査

東部地方振興事務所 登米地域事務所

【29日(火)】

補助事業で更新伐を実施した施行地のうち，実施完了の翌年度から２年を経過した箇所において，更新状況調査を実施しました。

調査には更新伐の事業主体の職員にも同行してもらい，更新状況について一緒に確認しました。

標準地（10m×10m）を設置して更新状況を調査した結果，全ての箇所で更新完了基準を満たしていることを確認できました。

調査を通して，事業主体には更新伐の目的や，更新状況調査の実施の必要性について理解してもらいました。

【標準地における更新状況調査】

竹林整備における資源循環に向けた支援

気仙沼地方振興事務所

【９日(水),25日(金)】

気仙沼産メンマ生産者（竹林所有者）の生産量増加に向け，竹林伐採後の竹処分が課題となっていたことから，整備手法等について技術指導・支援を実施しました。

従来の伐採竹処分は，林内集積として対応してきたところですが，集積場所から発生する竹生育の支障となることから，管内の竹破砕機を所有する団体とメンマ生産者のマッチング支援に取り組み，竹林整備時の協力体制を確保することができました。

また，破砕された竹チップを竹林内の一部区画に循環活用し，今後の竹の発生にどのような影響が表れるのか試験的に取り組むこととなりました。

今後，１２月の竹林整備支援の実施及び来春の幼竹の採取・確保支援など，引き続き生産者支援を行っていきます。

【前年度伐採した竹の処分が課題でした】

【竹チップ材の循環活用を検討】

令和４年度宮城県林業普及活動・試験研究成果発表会

林業技術総合センター

【18日(金)】

当所研修棟において，新型コロナウイルス対策に留意の上，内外から46名の参加者を得て，標記発表会を開催しました。

うち林業普及活動成果発表会は，関係する７地方公所から，日頃の普及活動が優秀な者を推薦いただき，競技形式で発表を行い最優秀賞１名，優秀賞２名を決定するものです。

入賞者には当所所長から賞状が授与されたほか，県林業普及指導職員協議会から副賞が授与されました。

今後も，各事務所研鑽の上，当県林業の推進に資することを祈念します。

【成果発表会の様子】

ハタケシメジ簡易施設栽培マニュアルの普及

林業技術総合センター

【30日(水)】

ハタケシメジ空調施設栽培品種「みやぎLD2 号」については，当林業技術総合センターが既存農業資材を用いた簡易施設栽培方法の試験に取り組み，これまでの試験結果に基づき「ハタケシメジ簡易施設栽培マニュアル」が取りまとめられました。

当センターでは，ハタケシメジの普及を図るため，既に空調施設栽培を行っている団体に訪問し，マニュアルによる新たな栽培方法の情報提供を行うとともに，これまでの栽培状況及び今後の生産計画等について情報収集を行いました。

団体からは，ハタケシメジが消費者から好評価を得ていることや，今後の生産計画等について情報提供がありました。

【団体へのマニュアル説明状況】